桜宮中だより

平成３０年９月１０日
大阪市立桜宮中学校
９月号　　No.12

２学期が始まり、２週間がたちました。先週、９月４日（火）は、台風２１号が猛威を振るい、これまで経験したことのないような甚大な被害が、私たちの住んでいる大阪でも発生しました。皆さんの家庭や、関係の方々は大丈夫だったでしょうか。

本校では幸いに大きな被害はありませんでしたが、学校周辺には破損した看板やトタン、割れたガラスの破片や木の枝葉等が飛んできており、ゴミが散乱していました。プールの中にもゴミが散乱し、換水しなければならない状況となりました。また、桜宮小学校の停電により給食が提供できない状況になってしまいました。そのような中、翌日、朝早く登校した生徒や教職員が校内外の清掃に取り組み、放課後には運動部の部員たちが運動場、プールの整備に取り組んでくれました。

また、６日（木）には、北海道で大地震が発生し、これまでの想定を超える自然災害の脅威や停電等の生活の不便さを感じる中、防災に対する意識や事前の備えの大切さなどを痛切に感じる機会となりました。当たり前と思っていたことが当たり前にできることが、実は当たり前のことではないということを知ることができたのではないでしょうか。いろいろな人に支えられながら今の生活があることに、常に感謝の気持ちをもって行動してほしいと思います。

さて、３年生チャレンジテスト、各学年実力テストも終わり、いよいよ２学期本番です。皆さんに、校長先生のもう一つの「座右の銘」を紹介します。

為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり

江戸時代後期、米沢藩（山形県）藩主の上杉鷹山が家臣に教訓として詠み与えた歌です。「できそうもないことでも、その気になってやり通せばできるものである。できないのは、その人がやろうとしないからである。」

『成る』は出来るという意味、『為す』とは行動するという意味です。どんなことに対しても、強い意志を持って立ち向かっていけば必ず成就するという、やる気の大切さを説いた言葉です。中学校生活を創っていくのは自分自身です。毎日をどのように過ごすかによって、自分の人生そのものが変わってきます。自分の未来のために、決してあきらめることなく、何事にも全力でチャレンジし、夢や目標に向かって努力してください。また、自分の夢や目標がわからない人、そんな人こそ、何にでも全力でチャレンジし、自分の可能性を広げてください。全力で頑張っていたら、自分のやりたいこと、自分にしかできないことがわかってくると思います。

「心が変われば行動が変わる　行動が変われば習慣が変わる

習慣が変われば人格が変わる　人格が変われば運命が変わる」

国民栄誉賞を受賞し、ジャイアンツ、ニューヨーク・ヤンキース、甲子園でも大活躍した元プロ野球選手・松井秀樹さんの座右の銘です。

しんどいこと、なかなかうまくいかないことでも、繰り返しやっていくことで、当たり前にできるように変わってきます。まず、目標を決めてください。やってみてください。できることから根気強くやり続けてください。いつの間にか、変わっている自分に気が付くはずです。

自分の未来のために、努力すること、努力を続けることを惜しまないでください。

平成 30 年度「全国学力・学習状況調査」結果速報

平成３０年４月１７日（火）、３年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせいたします。今後、データを分析し、取組の成果と課題について明らかにし、今後の教育活動の改善につなげていきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

結果の概要

	平均正答率					平均無解答率				
	国Ａ	国Ｂ	数Ａ	数Ｂ	理	国Ａ	国Ｂ	数Ａ	数Ｂ	理
桜　宮	77	64	67	49	65	1.5	0.4	1.5	8.2	2.3
全　国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0
大阪市	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9

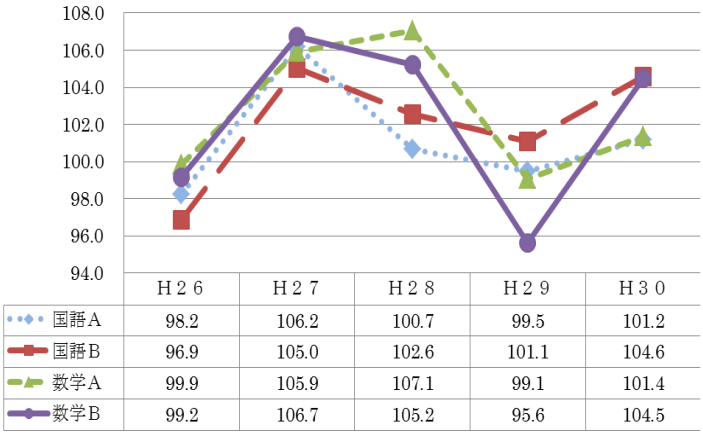
＜平均正答率・平均無解答率＞

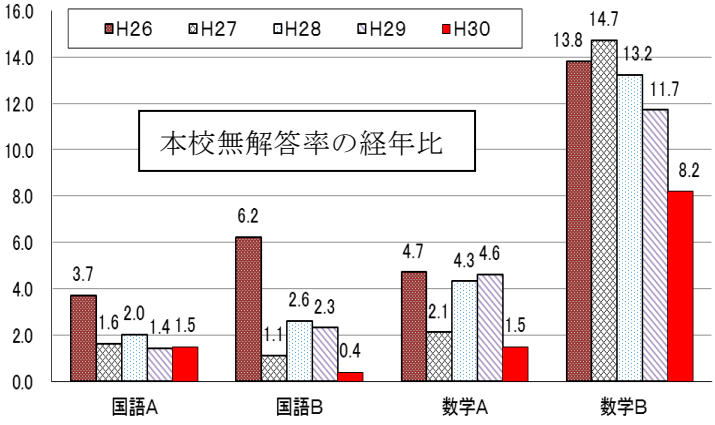
平均正答率では、国語Ａで 0.9 ポイント、国語Ｂで 2.8 ポイント、数学Ａで 0.9 ポイント、数学Ｂで 2.1 ポイント全国平均を上回りました。理科では 0.9 ポイント全国平均を下回りましたが、２ポイント大阪市平均を上回りました。

平成２６年度から５年間の全国標準化得点（全国平均を１００とした場合の本校の得点）を比較すると、すべての項目において昨年度を上回りましたが、平成２７年度の水準には達しておらず、国語・数学ともＡ問題（主として知識）で５ポイント程度の差がありました。

問題の分類別にみると、短答式や記述式の平均正答率が全国と比較して高い傾向にあり（表右下）、Ｂ問題（主として活用）の標準化得点がＡ問題と比較して３点ほど高いことからも、自分で考えて答えを導き出す力が身についてきていることがわかります。

全国標準化得点の推移





平均無解答率においても、国語Ａで 1.6 ポイント、国語Ｂで 2.6 ポイント、数学Ａで 1.8 ポイント、数学Ｂで 4.4 ポイント、理科で 2.7 ポイント全国平均を下回りました。また、国語Ａを除き、これまでの本校の無解答率と比較しても大きく減少しており、前向きに取り組もうとする生徒の学習意欲が伺われます。

次号では、「生徒質問紙調査の結果」についてお知らせします。また、これまでの本校の取組を踏まえ、今後の取り組むべき課題等についても分析し、お知らせしていきます。

問題形式	国Ａ	国Ｂ	数Ａ	数Ｂ	理
選択式	－0.4	＋1.8	＋0.5	＋1.8	－1.0
短答式	＋2.5	－	＋2.3	＋2.5	－1.8
記述式	－	＋3.9	－	＋2.7	－0.3

問題形式別正答率の全国平均との差